

しょうわ 議会だより

第 31 号

平成16年

10月25日

9月定例議会



▲森下豊年祭り



▲小寺知事とコスモス観賞



▲第7回昭和の秋まつり

おもな内容

平成15年度 **決算認定** (2~3ページ)

9月定例会で決めたこと (4~5ページ)

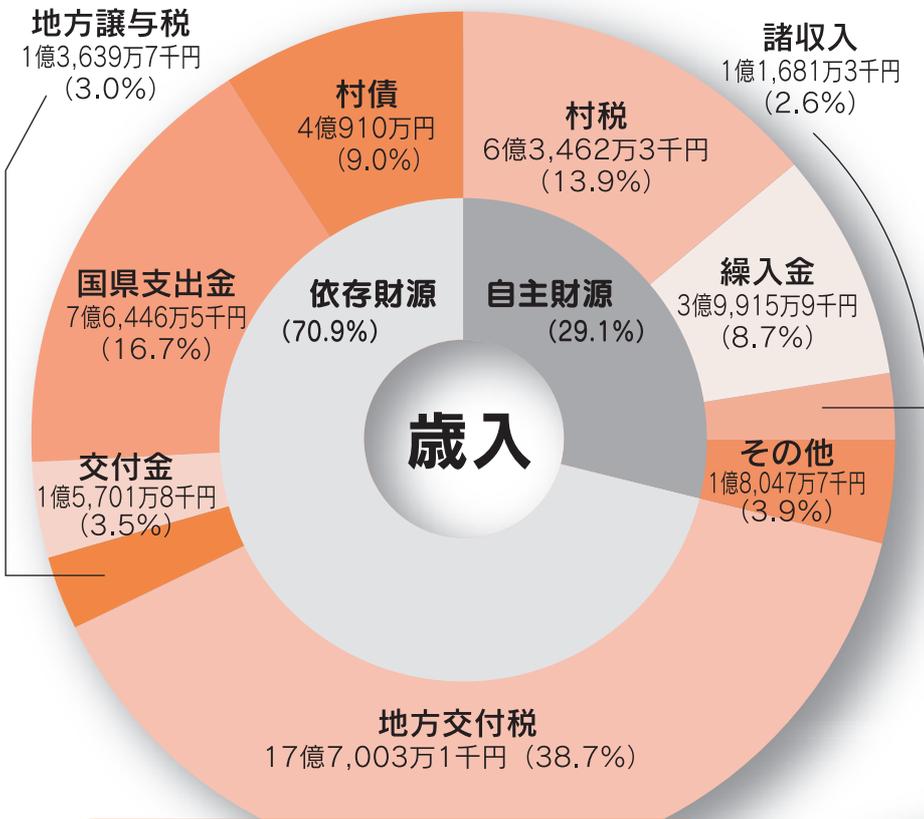
一般質問 村の姿勢を問う (8~9ページ)

議員研修報告 ~各常任委員会がゆく~ (11~13ページ)

読者シリーズ **聞きたい 知りたい みんなの声** (15~16ページ)

9月定例会

9月定例会は、9月9日(木)から17日(金)までの9日間の会期で開催しました。
 専決処分事項の承認1件、補正予算を含む議案14件、人事案件1件、特別委員会設置を含む議員発議5件が上程され、すべて原案のとおり可決し、平成15年度昭和村一般会計及び特別会計決算認定について、各会計とも提出された決算書のとおり認定しました。
 最終日の一般質問では2名が登壇し、村の姿勢を問いました。

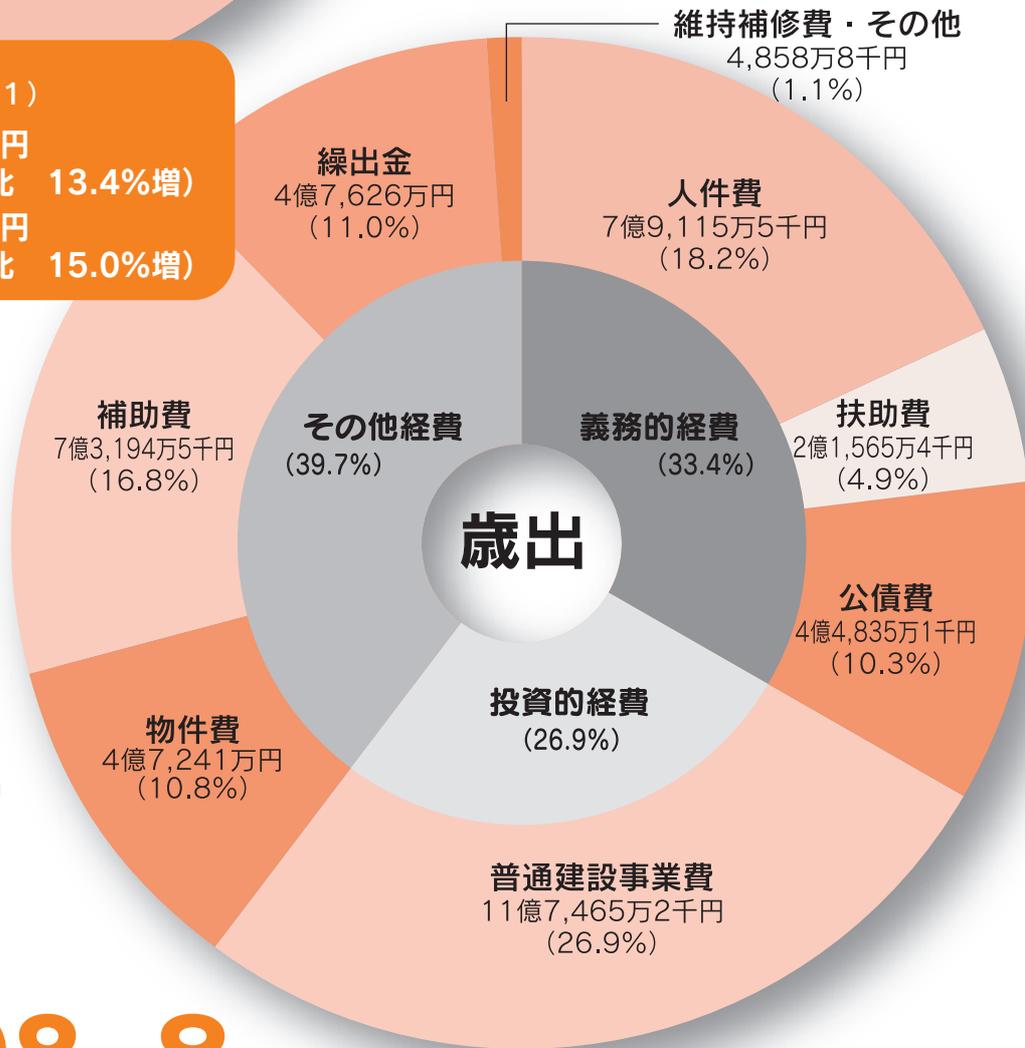


一般会計 (賛成多数 反対1)

歳入総額 45億6,808万3千円 (前年度比 13.4%増)

歳出総額 43億5,901万5千円 (前年度比 15.0%増)

歳入全体を見ると前年より増となっていますが、内容的には施設整備等各種事業による、国・県からの補助金の増、各種基金の取り崩しによる増であり、地方交付税は前年度比5.8%減額であります。極めて厳しい地方財政の現状をふまえた中で、村民福祉の向上のため、充実かつ効率的な事業が実施されました。



平成15年度決算 一般会計・特別会計

歳入総額
74億7,398万8千円

歳出総額
71億5,238万8千円

を認定

特別会計

国民健康保険事業特別会計 (賛成多数 反対1)

歳入総額 9億1,059万6千円
(前年比12.3%増)
歳出総額 8億5,984万2千円
(前年比 9.7%増)

・前年度比増額の主な要因は制度改正により、74歳までが国保被保険者となったためです。

老人保健事業特別会計 (全員賛成)

歳入総額 7億8,409万5千円
(前年比14.9%減)
歳出総額 7億6,571万3千円
(前年比13.2%減)

・前年度比減額の主な要因は、老人保健法改正により対象年齢が70歳以上から75歳以上までに段階的に引き上げられた事による医療費の減額です。

簡易水道事業特別会計 (全員賛成)

歳入総額 1億8,229万4千円
(前年比50.8%減)
歳出総額 1億6,607万8千円
(前年比52.9%減)

・歳入・歳出ともに前年比が大幅な減額になっていますが、営農飲雑用水施設整備事業の工事費の減額によるものです。

農業集落排水事業特別会計 (全員賛成)

歳入総額 5億8,488万9千円
(前年比 2.6%増)
歳出総額 5億6,926万6千円
(前年比 2.4%増)

介護保険特別会計 (全員賛成)

歳入総額 4億4,403万1千円
(前年比 0.3%増)
歳出総額 4億3,247万4千円
(前年比 0.4%増)

総務費

- ・芝生公園整備事業
- ・千客万来支援事業
- ・観光トイレ整備工事
- ・千客万来支援事業
- ・観光案内板設置工事



民生費

- ・知的障害者支援費
- ・第1保育園整備事業



教育費

- ・昭和村公民館、保健センター熱源入替工事

衛生費

- ・リサイクル施設設置工事 (旧給食センターを改修)

平成15年度の おもな事業

土木費

- ・道路台帳補正業務委託事業
- ・村道中野横断道路 (望郷ライン) 道路舗装工事
- ・村道滝寺上内出線道路改良工事 (新設)
- ・村道町屋1号線道路改良工事 (新設)

農林水産業費

- ・堆肥舎施設整備事業
- ・鹿除けネット工事 (桜地区)



消防費

- ・ポンプ車及び小型動力ポンプ付積載車の導入 (第5・第10分団)
- ・消防団詰所解体工事 (第8分団)

監査委員の

決算審査総括的意見

代表監査委員 松井源之助 氏

監査委員 澤浦 譽由 氏



園整備事業、芝生公園整備事業、堆肥舎等施設整備事業の大型投資補助事業によるものであります。

今年度審査において、歳出の注目すべき点は、人件費が減少した事である、これらは、議員定数の2名減、また現在の議員また特別職、自らが報酬・給与を5%引き下げたり、職員数の減に伴うものであります。

公債費は前年比2千500万1千円増となり、公債費比率も12・4%と毎年上昇しております。

投資的経費は前年比6億4千841万3千円増で対前年比では123・2%の増です、第一保育

歳出方法についても予算に基づき支出されており、村民が安心して生活を営め、また経営の安定化、児童生徒の環境整備等の諸施策も施されており、所期の目的は達成したと思われま

つぎに補助金交付先を審査しました。抽出審査(件数7件)補助金の内容は多岐に亘り、且つ交付先も数多くあります。補助金の性格上、交付を一度受けると「既得権」となり受ける側は毎年続くとおっしゃいますので、注意を払っていただきたいと思

こういことが 決まりました

9月定例会

議員発議

「村づくり対策特別委員会」 設置を議決

全議員16名を委員として、村づくり対策特別委員会を設置いたしました。昭和村は、昨年の12月議会において自主自立を決定しました。そして、今年度においては村の長期計画を策定する「第4次総合計画策定」の年であり、厳しい財政状況下ではありますが、自主自立に向けて、今後10年間の計画を作っていく中で、村民が「夢と希望の持てる将来構想」を村民・議会・村当局と三者が一体となり、足並みをそろえて自主自立の村づくりに取り組んで参ります。

特別委員会のうごき

第1回

村づくり対策特別委員会を開催

▽10月3日(日)

9月定例会において設置された、全議員で構成される村づくり対策特別委員会が開催され、正副委員長を決定いたしました。

委員長 澤浦譽由

副委員長 小野一男

また、その後、10月18日に行う、村づくり協力委員さんとの話し合いのテーマを「10年後の村づくりについて」としました。今後、自立した村づくりのために、協議を重ねて参ります。

意見書を提出しました

地球温暖化防止のための森林吸収源 対策の確実な推進を求める意見書

我が国の森林は、国土の保全、良質な水の安定的な確保など、豊かな国民生活を送る上で欠くことのできない多様な機能を有しています。特に、近年では、地球温暖化の主たる要因である二酸化炭素の吸収源として重要な役割が期待されているところであります。

地球温暖化対策については、京都議定書に定める我が国の温室効果ガス削減目標6%のうち、3.9%を森林による吸収量で確保することとしており、削減約束の達成には森林の健全な育成が不可欠なものとなっています。

よって、国におかれては、吸収源対策としての森林整備を強力に進め、豊かな森林空間と自然を次の世代に引き継ぎ、国民共有の財産にするため、温暖化対策税の創設を図り、その税収の活用目的に森林整備・保全を位置づけるよう地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成16年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会

地方財政の充実・強化を 求める意見書

1. 2004年度予算における大幅な交付税削減が、自治体の予算編成に混乱を生じた結果を踏まえ、2005年度は地方財政再建と地方自立につながる財政改革を行うこと。
2. 税源移譲を進めたとしても自治体間の財政力格差は存在するため、地方交付税制度の財源保障と財政調整の機能を堅持し、地方交付税の「総額」は確保すること。

平成16年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会

郵政事業経営形態変更に 反対する意見書

現在、郵政事業の在り方についても論じられておりますが、経営形態の見直しや民営化等経済優先の角度から論議され、必ずしも民意に添った方向に動いているとは思えないところであります。

また、国民の経済生活の一部となっている多くの郵便局の廃止も考えられ、郵便貯金や簡易保険の利用にも不便が生じ、生活に与える影響も大きなものがあると思われま。

現在、日本郵政公社は発足後1年5ヶ月が経過し、平成15年度の決算では三事業とも独立採算のもと黒字を計上し、もとより税金は一切使わずに健全な経営が行われています。

つきましては、国においては郵政事業がこれまで果たしてきた役割を考慮し、今後とも現行の国営、非営利の経営形態を堅持し、事業の民営化に向けた取組みを行わないよう強く要望します。

平成16年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会

義務教育費国庫負担制度の 堅持に関する意見書

義務教育費国庫負担制度は、義務教育の機会均等とその教育水準の維持・向上及び地方財政の安定のため、国が必要な財源を保障するとの趣旨で確立されたものであり、これまで大きな役割を果たしてきたところであります。

国は「三位一体の改革」の中で、平成18年度末までに全額一般財源化について検討を行うこととしています。

義務教育の水準確保と地方教育行政の充実を図るためには、来年度以降においても、学校栄養職員や事務職員を含めた教職員の給与費に係る義務教育費国庫負担制度を堅持することが必要であります。

平成16年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会

常任委員会のうごき

総務常任委員会



本委員会は、9月13日、村長、所管職員出席のもとで、15年度決算と主要施策の実績報告の説明があり、審議を行いました。財政運営にあたりましては、監査委員報告のとおり、所期の目的は達成できているが、今後は財政が厳しくなることが予測されるので予算執行については慎重を期すことを求めました。

付託案件については、「地方財政の充実・強化を求める」「郵政事業を

民営化しないことを要望する」「地球温暖化防止のため、森林吸収源対策の確実な推進について」の3件については、地域に直接関わる問題であり、慎重審議の結果、採択として意見書を国へ提出することとしました。

「日米地位協定の抜本改正を求める意見書採択に関する要請」は現在、国で審議中とのことで趣旨採択としました。

厳しい財政事情の中です。各小学校区に3カ年で計画されている20戸の借上げ賃貸住宅のうち、今年度大原地区に8戸完成します。村の活性化と人口増に期待がされております。

さらには、関屋工業団地への企業誘致も努力中であるとのことで、早急な進出に期待するところがあります。

民生文教常任委員会

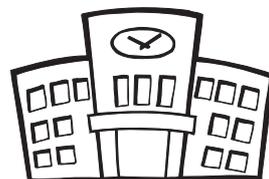
本委員会は、9月15日、委員全員、議長、村長、助役、教育長、関係各課長、係長出席のもと審議を行いました。

付託案件については、受理番号76号「教育基本法を守り生かすことを求める請願」の審査を行いました。

委員の中から、時代にそぐわないことは修正していくのも一つの方法と思うがとの問いに、村当局側から現行の教育基本法は特に問題はないと思うが、ただし、教師の解雇の仕方にも幅がある等、意見交換がありました。国の方角性も出ていないことから継続審査としました。

その他質疑として、大原小学校の耐震調査の関係を問うと、体育館については、改修が必要、校舎については基準値をクリアしているとのこと

でした。特養ホームについては9月24日入札、10月7日、起工式で工事が始まり、来年8月開所予定となっております。また、大原小学校区の学童保育施設について、今年度は、県の補助事業は町村部の採択はないということで報告があり、次年度に期待します。



産業建設常任委員会

本委員会は、9月14日開催、委員全員、議長、説明者として村長、助役、関係各課長、係長の出席により、委員会に付託された請願・陳情について現地調査のうえ、慎重審議を行いました。

受理番号77号「入原県道より西原村道を繋ぐ旧



▲子育て保育園改築予定地周辺

道拡幅及び一部分の新設工事のお願いについて」は、当該地区は、子育て保育園改築予定地に一部隣接し、一部は公道の付け替え等を含んでおります。高橋助役より、説明を受け、意見交換をし、道路工事を行う時は、子育て保育園の形状を勘案し、行うことを確認し、全会一致で採択としました。

受理番号78号「スーパ―」資金農林漁業金融公庫直接融資に関する利子補給のお願いについては、認定農業者育成資金利子助成金交付要綱を基に、第7条関係について質疑が行われたが、なお引き続き、調査研究の必要があるとのこと、継続審査といたしました。

受理番号79号「国際コメ年」記念事業の推進と、国に対し「米改革」の中止、及び価格保障制度の確立を中心とした稲作再生策を求める請願」では、米価は生産者が決めるのではなく、消費者が決めるとの意見もある中で、安心して食べられることが一番であり、安定供給ができるよう、全会一致で趣旨採択としました。

受理番号62号「村道古宮・追分線融雪管設置についてのお願ひ」は、冬期を考えると、村の幹線道路であり、全会一致で採択としました。



▲▶使用済自動車の再資源化、群馬カーリサイクルセンター建設地



9月17日の全員協議会では、県の認可による群馬カーリサイクルセンター建設に伴い、新木社長、山口専務より施設及び来年1月1日から施行自動車リサイクル法の概略の説明を受けました。

建設地近隣は、昭和中学校、住宅があり、騒音・振動等心配であるという意見に対し、防音壁等、対策には万全を期すと述べられました。



ここが聞きたい
村の姿勢を聞こう



高橋幸一郎議員

農業観光振興に対する本村の今後の取り組みについて

Q アテネオリンピックで活躍をされ、見事に金メダルを獲得された、日本女子柔道の谷亮子選手らの隠されたパワーが昭和村農業観光協会の方々の心のこもった「苺大福」であったと痛感しています。

農業観光振興のために第1に産業課に農業観光係を設置し、村内外の広報宣伝活動を積極的にを行い、村の知名度アップを図ることが重要なことと考えます。

第2に赤城高原サービスエリア内に昭和村農産物直売所を開設し、旬菜館の「新鮮・安心・安

全・安価」な商品を、より多くの方々に知っていただき利用してもらおう事が大切であると思いま

す。第3に今後ますます増加する兼業農家、高齢者農家、空き農家等の生活体験と生産技術を大いに

発揮してもらえ、グリーンツーリズムの推進を推し進める必要があります。昭和村の農業の将来像について村長の考えは、また、主要な施策は。

A 村長

農業観光係の新設につきましては、今後のある

べき農業の実情を勘案しながら、前向きに検討していきたいと考えております。赤城高原サービス

エリア内の昭和村農産物直売所の開設については、私なりに過去にいろいろな人にも相談したりしておりますので今後も努力していきたいと思っ

ております。本村も今後群馬県グリーンツーリズム連絡協議会に参加をし、県内他町村との情報交換や先進的な事例等を参考に、市民農園を中心とした本村としてのグリーンツーリズム施策について今後検討して参りたいと思

います。本村の農業を維持、発展させるために、経営体農家の育成、他産地との差別化支援制度の整備、環境保全型農

業の導入、観光農業の推進等、将来を見据えた新

入札制度について

たな農業施策の検討が急務と考えます。

Q 入札制度については過去、何度かこのことについて、一般質問がされてきましたが、村当局として改善の方向性が見られないと感じます。地元業者の育成を図ることは大切なことと思

います。平成15年度1億円強の事業費に対し、1社で6割もの金額を落札するという異常な事態に対し、業者と村当局の癒着があるのかと思わざるを得ません。予定価格の金額提示が談合になり、公

正な競争原理を阻害します。最低制限価格を必ず設けて、不正工事の防止を図る必要があります。特定な業者に偏ることない公平・公正でより良い仕事をより安くしてもら

える入札制度にすることが急務であり、ミスをした業者はペナルティとして指名停止等の処分は当然であります。早急に電子入札も含めた公募型入札にすべきであると考え

ます。また、平成15年度1億

A 村長

入札制度関係につきましては、県と十分に協議しながら今までやった事をふまえながら検討していきたいと考えております。

需用費等の納入コストの見直しについては、消耗品購入伺書を各課から総務課長に提出させコスト削減を図っているところではありますが、身近なところから改革を実施している状況であります。



林 幸司議員

「昭和の湯」「山荘」の表示改善を求める 廃車リサイクル工場建設問題について問う

Q 温泉不正表示が社会問題となつていますが、本村の現状説明と情報の公開を求めます。

A 村 長

「昭和の湯」源泉は、メタケイ酸、フッ素イオンを含むアルカリ性単純泉、60・9度の湯を毎分31リットル汲み上げ、入浴剤の使用はありません。

加水は、温泉と同時に掘削した21度の井戸水源を利用し内湯、露天風呂について概ね34%です。水道水は水風呂、ジェット風呂のみに利用しています。

循環濾過装置の洗浄は、毎日で、塩素消毒を行い、ボイラーによる加温により循環使用しています。レジオネラ菌の検査につ

いては今年2月に沼田保健福祉事務所が実施し240CFU（100リットル当たり）が検出され、改善対策として、浴槽の循環配管器

機の薬品による洗浄を行い、塩素注入量を増量しました。

浴場の湯の総入れ替えは、和風・洋風・ジェット風呂は週2回、露天風呂は週3回行っています。

昭和の森山荘については、天然温泉ではありません。男湯は、地下水を沸かした中に天然鉱石の光明石を入れ、日立金属考案の「温泉システム装置」で温泉気分を味わっていただいています。

循環濾過装置は、定期的に洗浄・消毒し、循環湯量は毎分約140リットル、ボイラーで42度に加温し、

次亜塩素酸ナトリウムで殺菌しています。

浴槽のお湯は10回を目途に入れ替え、使用後は清掃しています。

女湯は、入浴剤である「温泉の元」を使用し、循環湯量は毎分70リットルで、同様に殺菌・清掃しています。レジオネラ菌は検出されておられません。

当初「光明石温泉」、「天然鉱石温泉」などと表示していましたが、誤解を招くとして、表示板を取り外しました。今後は、さらに適正表示を行いサービス向上に努めて参ります。

Q 郵政3事業には1円

郵政民営化に 断固反対を

の税金も使われていません。国民にとつて百害あって一利無し。「郵政民営化」について、村長として断固反対の意志表明を求める。

A 村 長

民営化に、反対であるということですのでよろしくお願いをいたします。

子育て支援策の 充実を

Q 少子化克服は、村の将来に関わる最重要課題。

A 村 長

「計画」策定に向け、ニーズ調査を実施、集計中です。今後は「地域協議会」を設置します。

計画策定のなかで子育て支援コーディネート事業や未実施の夜間保育、休日、子育て短期支援、乳幼児健康支援、特定保育、ファミリーサポート、つどいの広場事業についても検討します。

昭和の中付近に 解体工場で心配

Q 計画地は狭くて、中学校や民家にも近く心配がある。村長としての行政指導を求める。

A 村 長

自動車リサイクル法に基づき施設で、県規程により、6月には建設着工が許可されています。計画変更により3千㎡以下と狭くなり開発指導要綱適用外となりました。廃車置場については、農振除外申請が優良農地との理由で不許可となり、申請者から他の土地を照会して欲しいとの話があり、農業委員さんに

お願いしましたが、代替地を協議するとの約束は行っていません。今後、車体プレス機械の設置で、騒音・振動規制法に基づく設置届けが村に提出されます。

建設地は、県生活環境保全条例の騒音振動規制地域指定第二種区域であり、学校敷地の周囲50mの区域内における基準は、昼50、朝夕45、夜40デシベル以下です。

これらの規制をふまえ、関係法の基準値以内であれば、他の場所に建設等の行政指導は困難であると考えております。尚、設置届けが出されましたら、これらの法的規制、基準を遵守するよう指導します。



全員協議会から

▽8月2日（月）

**一般廃棄物・資源
ゴミの回収と今後
について**

ゴミの収集業務について今年度から、民間委託を開始し、一般廃棄物収集業務を新栄産業（有）と委託契約し、有価物集団回収奨励事業回収物引取りの契約については、郡北リサイクル事業共同組合と委託契約をしています。村では資源ゴミについて、集団回収を推進し、それに移行する地区が増えていきます。そのため契約時と状況が変わってきたことにより、双方の契約当初の見込み量と違いが生じたことの申し出があり、方策を協議しました。

▽8月31日（火）

**自動車リサイクル
について**

茨城県美野里町にある（株）茨自販リサイクルセンターを視察しました。自動車の98%はリサイクルが可能で一日100台を目標に稼働とのことでした。

▽9月6日・10日（木・金）

**平成15年度昭和村
一般会計及び特別
会計歳入歳出決算
について**

総務課から、昭和村のバランスシート（一般会計）作成に伴い内容についての説明を受け、次年度からは行政コスト計算書として公表することになりました。また、今後企業会計についても作成を進めていく予定であるとのことです。

順次、各課からの決算説明がされ、活発な討議が行われました。

▽9月17日（金）

**第4次総合計画策
定に伴う説明と
ヒアリング**

村当局、コンサルタン（株）ぎょうせい）から、昭和村の第4次総合計画策定に伴う、住民アンケートや各種団体を対象としたヒアリング実施について説明を受けたのち、議員全員のヒアリングが行われました。コンサルタンから、この計画策定には、戦略的な構想が必要とされ、一律削減ではなく伸ばせるところは伸ばしていく、誇りを持って政治的・行財政的に自立していける村づくりのための意見が求められ、全議員から今後10年の昭和村の構想について様々な意見が出されました。

**子育て保育園・特別
養護老人ホームの
中間報告**

老朽化に伴い子育て保育園々舎の改築について平成17年度保育所施設整備事業では、現定員の90名では対象とならず、今後の増を見込んで定員を110名として申請した旨、旧東中跡地に建設予定の特別養護老人ホームについては、法人名・施設名が認可（8月12日）され、設立（8月18日）された旨の報告がありました。

**法人名 なごみの杜
施設名 菜の花館**

この菜の花館については、10月着工、来年8月開設予定とのことであり、議会・村として、理事長（西松輝高氏）あてに地元雇用促進と地元食材の使用の要望書を提出しました。

— その他のうごき



▲中田横浜市長（横浜林間学園にて）

▽8月10日（火）

小寺知事が6月に村内園児と一緒に種まきを行ったコスモス畑観賞のため来村し、園児、関係者からの厚い歓迎に終始笑顔の知事でした。

▽8月26日（木）

ポンプ操法県大会が群馬県消防学校にて開催され、第1分団・第3分団が見事にアベック優勝の偉業を成し遂げました。

なお、第1分団は11月8日横浜市で開催される全国大会に出場します。心より健闘を祈ります。

▽7月23日（金）

農業委員会と議会での合同作業による、総合運動公園内の下草刈りを実施しました。



▲下草刈りの様子

▽10月3日（日）

交流イベント「第7回昭和の秋まつり」が「こんにゃく生産日本一」「野菜王国」の昭和村を村内外にアピールするため実行委員会主催で盛大に行われました。今回は会場が総合運動公園多目的広場でしたが、雨にもかかわらず多くの方々にご来場いただきました。

▽7月31日（土）

中田横浜市長来村に伴い昭和の森山荘で、議会、村内各種団体代表ら50人余りと盛大な意見交換会が行われました。

議会視察研修報告

民生文教常任委員会

7月12日～14日

総務常任委員会

8月18日～20日

山口県萩市において社会福祉事業団について調査を行いました。萩市では、多くの公設施設の運営について、社会福祉協

事業団を設立し、経営の効率化を図り、社協と事業団の二本立てで地域福祉の推進体制の強化を図るそうです。

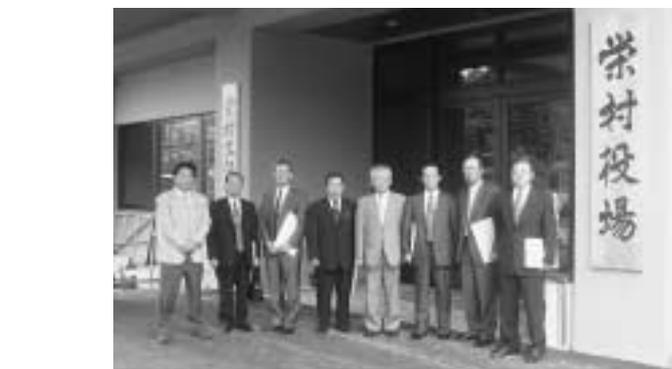
議事に委託してきましたが、社協本来の主たる業務である「地域福祉の推進」の事業規模を上回る

また、萩藩出身の吉田松陰の松下村塾を訪ね、身分や階級にとらわれず門下生として受け入れ、伊藤博文、山県有朋ら明治政府に活躍した逸材を輩出したのは教育

の力だと人材育成の大切さを痛感しました。

また、下関市においては、環境未来館を視察し、高度経済成長下、消費は美德と言われた大量消費、大量廃棄を行ってきたが、近年では資源

循環型社会の構築を考える様になり、一日あたり、U3トンのゴミが資源として再利用される事により、ゴミとして処分されるのは、わずかな量であり、ほとんどのものはリサイクル可能であると説明を受け、大変参考になりました。



現在全国の各市町村では合併問題に大きく揺れています。今回の研修目的は、そのような中、昭和村は合併をせずに自主自立を選択、自立を目指す村づくりに着手し、自立のための村づくりのため、新潟県・長野県の合併しない町や村を調査研究してきました。

新潟県 津南町

人口 12,353人 (男6,089 女6,264)
面積 170.2km² 財政力指数 0.3 (H15年度)

自立に向けた取り組み

- (1) 全事務の事業見直し
- (2) 分野別自立推進チームによる具体的な町づくりの検討・構築
- (3) 人事・給与・機構等の見直し
- (4) 予算・税財政の見直し

これらを、重点目標課題として平成15年、16年の2カ年をかけて取り組み、現在、分野別自立推進チーム(全職員所属)で週1回、勤務時間外に自律に向けた町づくりに会議を重ねています。

長野県 原村

(H16.4.1)

人口 7,386人 (男 3,642 女 3,744)
面積 43.16km² 財政力指数 0.324 (H15年度)

輝け、原村 自律への道と題して

日本一元気な村をめざす新しい村づくりに向けての基本方針として、根本的な行政改革を実施しながら、住民が行政運営や村づくりに積極的に参加。安価で効率的な行政体を実現し、夢のある村づくりを進めていくことを理念としています。

緑と笑顔あふれる心豊かな村

1. 人と自然を大切にしたい住みよい村づくり
2. 人と文化を育む村づくり
3. 健康と幸せを誇れる村づくり
4. 環境と共生した活力ある村づくり

農業の盛んな村で、我が村とたいへん似た環境がありました。自立計画も16年5月より、庁内プロジェクト設置以降、17年度予算への反映、第4次原村総合計画に向けて財政改革プランが進行していました。

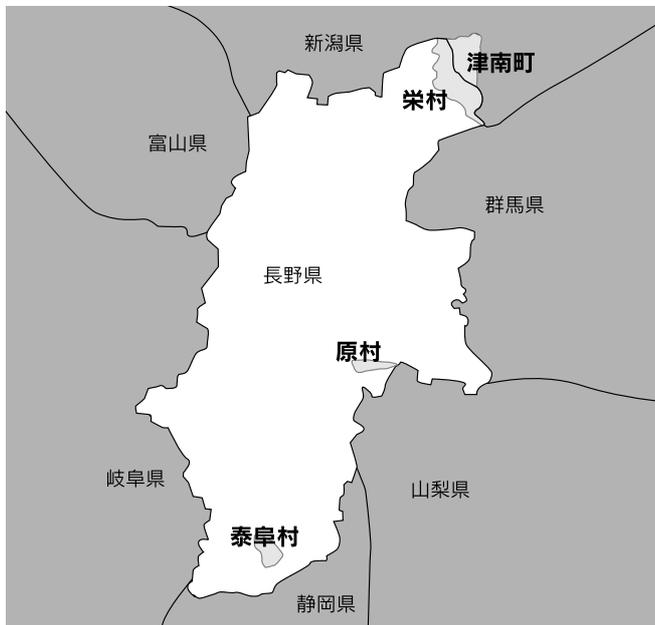
長野県 栄村

(H16.4.1)

人口 2,621人 (男 1,249 女 1,372)
面積 271.51km² 財政力指数 0.12 (H14年度)

栄村「自律」研究報告書の中で実践例として

- (1) 道直し事業（施工を職員と住民とが協力しながら直営ですすめる。）
- (2) 雪害対策救助員制度（雪害救助員が雪踏み支援員を配置し対応。村民協力）
- (3) 田直し事業（村直営で地域に合った土地改良を行ってきた。）
- (4) 栄村振興公社の運営（原料や労力を村内から調達。地域に還元し循環を目指す。）
- (5) 下駄ばきヘルプの体制（豪雪地でも下駄を履いていける距離にヘルパーを確保。
村で独自のヘルパー養成講座を開き、人材確保。）
- (6) 合併浄化槽による下水整備（集落が散在のため。）
豪雪山村のこの村は数量的発展を目指すのではなく、1人ひとりの住民の生きざまに視点を置き、住民の意識改革と地域の将来像を描きながら、村づくりを進めていました。



長野県 やすおか 泰阜村

(H16.4.1)

人口 2,069人 (男968 女 1,101)
面積 64.54km² 財政力指数 0.15 (H15年度)

長野県田中知事が住所移動で有名になった村。大きな山と天竜川に付断され、たいへん交通の便が悪いとのこと。アンケート結果、自立が50%で合併に賛成は20%との結果、自立を決定しました。

泰阜村では「ふるさと思いやり基金」の寄附の案内を出していました。

－ 日本の成長と都会の発展の結果、過疎村となり、少子高齢化、後継者不足等で、税収不足と、様々な課題が村を直撃、山村は森林保全や水資源の供給はない。都市との共生の時代時代の観点から共感していただける方より寄附をいただき財源とし、村にふさわしい、事業を実施していきたい。－

過疎が進み、たいへん厳しい村であるよう思いますが、たいへんユニークな発想から今後の都市住民の関心と協力を期待をかけた村の思いを感じました。

合併しない4町村を視察研修を行い、昭和村は人口7,924人・面積64.17km²(H16.4.1) 財政力指数0.28 (H15年度)と人口は減少し、少子高齢化が進み、財政力も大変厳しい中ですが、交通の便と後継者問題等々、まだまだ恵まれた条件もあります。今後これらの優位性を生かし、他に負けないむらづくりを進めていかなければと感じさせられた研修でした。

産業建設常任委員会

8月9日～11日

「ゆずの里馬路村」

四国高知市より車で東へ2時間あまり、鮎釣り
で有名な清流安田川沿い
に今回研修地「ゆずの里
馬路村」があります。

人口、1,200人、
村の96%が山林で残り
4%が畑で、そのうちの
46ヘクタールの畑でゆず
の栽培がされています。

村の産業は森林資源と
ゆず栽培とゆずの加工品
です。かつて、林業を主
とした産業が今日、木材
価格の低迷により、衰退
をしていく中、わずかば
かりの農地に「ゆず」の
栽培を始めたのが、昭和
40年頃であり、当時10名
ほどの研究会員が中心と
なった取り組みでありま
した。

もともと村には百年を
越す古木が散在し、ゆず

を利用する食文化もあつ
て、栽培を始めるきつか
けがそこにはありません。

農協がゆずの取り組み
を始めたのは栽培から数
年を経過してからであ
り、生産量はまだわずか
であったが、栽培農家の
増加、生産の増大により、
農協は下級品の加工販売
に取り組み、ジュース・
ポン酢・ゼリーなど数多
くの加工品の販売に力を
入れ、産直と宅配便を利
用して全国へ配送してい
ます。

人口1,200人の村
の農協と役場の職員が全
国のデパートやスーパー
その他のイベントへ年間
約80回くらい参加して、
宣伝し、販売を行って
います。

その成果あつて、現在

では全国に農協30万人、
役場2万人のお客さん
を持ち、販売・配送して
おり、今では170戸のゆず栽
培農家で生産し、馬路村
のゆず販売の売り上げが
30億円を超えていると
ことでありました。

また、林業では、ゆず
の販売ルートを利用し、
森林組合が、杉工芸品、
花瓶、お盆、うちわなど
の加工品を販売してい
ます。



▲馬路村の加工品

「風力発電」



より実証され、最近何か
と話題になっている、自
然にやさしい風力発電の
建設を行い、「カルスト」
の高原をわたる風を受け
雄大に回る風車が2機あ
り、発電しています。

風車の高さ50メート
ル、羽根が48メートル。
一機の建設費が2億2千
万円、2機合わせた年間
の電気売上げ金額が4千
万円であり、その一部を
林業関係へ助成してい
ることでありました。

ゆずはら
梶原町は、高知県中西
部に位置し、日本の三大
カルストと言われる広大
なカルスト高原を有する
地域にあります。

「四国カルスト」は、
日本最後の清流四万十川
の源流域に位置してお
り、風況が良く風力発電
所の建設には最良の条件
を整えていることが、平
成8年度から風力調査に





みなさんからの請願・陳情



自 平成16年5月20日 至 平成16年9月2日

受理番号	受理年月日	件名	陳情者の住所・氏名	紹介議員氏名	付託委員会	審議結果
70	H16. 5. 20	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出に関する陳情書	自治労群馬県本部 中央執行委員長 田中興一		総務	採択
75	H16. 6. 15	「日米地位協定の抜本改正を求める意見書」採択に関する要請	群馬県平和運動センター 代表委員 石黒寅毅ほか7名 群馬県憲法を守る会		総務	趣旨採択
76	H16. 8. 9	子どもたちの健やかな成長を保障するために教育諸条件の整備を行い、教育基本法を守り生かすことを求める請願	教育基本法の改悪を許さないぐんまの会 代表 石田清人	林 幸司	民文	継続
77	H16. 8. 23	陳情書「入原県道より西原村道を繋ぐ旧道拡幅及び一部分の新設工事のお願いについて」	入原区長 諸田幸男 道路委員長 高橋雅俊 ほか	竹之内 章 藤井 富夫	産建	採択
78	H16. 8. 26	「スーパーL資金」農林漁業金融公庫直接融資に関する利子補給のお願い	株式会社野菜くらぶ 代表取締役社長 澤浦彰治 ほか9名	治田 貞賢 高橋幸一郎	産建	継続
79	H16. 8. 31	「国際コメ年」記念事業の推進と、国に対し「米改革」の中止および価格保障制度の確立を中心とした稲作再生策を求める請願	利根沼田農民連 代表 後藤 利雄	林 幸司	産建	趣旨採択
80	H16. 9. 1	「郵政事業を民営化しないことを要望する意見書」の提出を要請する件	久呂保郵便局長 堤 順裕 糸之瀬郵便局長 鈴木宏政	金子松二郎 竹之内 章 藤井 富夫	総務	採択
81	H16. 9. 1	地球温暖化防止のための森林吸収源対策の確実な推進について	群馬林政推進協議会 会長 飯塚 昌男		総務	採択
82	H16. 9. 2	陳情書「村道古宮、追分線 融雪管設置についてのお願い」	大河原区長 松井 三郎 ほか5名	治田 貞賢	産建	採択



昭和村に花火を上げる会
会長 小 池 和 弘 さん
(松ノ木第一 40歳)

子供達に夢と思い出を

昭和村に花火を上げる会を発足し早いもので「10回ウインターフェスティバル・イン昭和」を開催できました事をこの場をかり改めて協賛者をはじめ関係各位また村民の皆さんに対し深く感謝申しあげます。
この会のモットーは、



昭和の秋まつり実行委員長
加藤 義 則 さん
(宿 70歳)

昭和の秋まつりを開催して思うこと

昭和の秋祭り実行委員として意見を求められましたので、一言申し上げさせていただきます。
合併四十周年を記念して始まった昭和の秋祭りも、村長や議会の皆様をはじめとし多くの団体個人等のご支援ご協力により年々参加者が増加し会

営・告知のポスター等）毎回開催してきました。最近では、沢山の村外県外の人達も来てくれるようになりました。

そんな中で本年度メンバーの一人が（酪農業）子牛を見せたり、さわらせたりと、ミニふれあい牧場を行ったところ、県外の親子がスタツフに「福祉バザーの牛乳は、こちらの牧場の物ですか」と聞いてきた。「そうです」と答えると「うすめてないから濃くて美味しい？」「牛はメスならい

うことは、私がりんご研究会会長の時に、東京ばかりでなく、県内にもピールアールしたらという事になり、前橋市のスーパーでりんごの宣伝をした時に昭和村から来ましたと言ったら、そんな村どこにあるのと言われ、知名度の低いのに驚いた事がありました、当時はりんごは共選で東京市場に出荷し、こんにやくは農協仲買に出していた頃で、インターチェンジも希望してない状態でした。

つでも牛乳が？」蒟蒻芋を知らない、加工法を知らない。前に記したとおり私達は、昭和村の子供達に本物の花火を見せたいという目的で、これからも頑張つて行きますが村当局をはじめ商工会等「昭和村」をアピールする場として活用してみたいかがでしょうか。



今日では安値の農産物が店に並ぶ様になり、農業経営の合理化やよい品物を生産し競争に負けない様に頑張らなければなりません、そのうえ「自主自立」の村を目指すのですから村長さん始め議会の方々にも、よろしくご支援をお願いいたします。



昭和村舞踊協会
会長 竹之内 みち江 さん
(吹 張)

舞踊一すじ 十周年を迎えて

昭和村舞踊協会が、平成6年に設立し、早くも今年十周年という記念すべき年を迎えることができました。過ぎ去ったこの10年間の歩みにおいては、ご指導、ご後援いただきました諸先輩、各界ご指導者や会員、そして舞踊を愛する多くの皆様のお力添えによるものと会を代表して厚くお礼申し上げます。

発足当初より七会派合同により、会員相互の連絡協調を図りつつ、第一回公演を平成7年10月、村公民館多目的ホールにおいて社会福祉義援金チャリティー舞踊発表会として開催し、その浄財を福祉義援金として、村の社会福祉協議会へ贈り続

け、以来回を重ね今年10月17日記念すべき第10回発表会を開催する運びとなりました、またこの10年間にわたる記録を記念誌「舞踊協会だより」として教育委員会事務局のご尽力により発刊していただきます。
こうして会員共々、二十という年を重ねた現在でも芸能を通して固く結ばれ今日の隆盛をみる事ができたのだと思います。
現在も七会派の指導者により会員一体となり、村の福祉向上のために積極的な舞踊協会運営の推進に取り組んでまいりたいと存じますので一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



昭和村消防団長

倉澤 憲 治さん
(根岸 47歳)

防火防災意識の高揚を

私が、第3分団員としてポンプ操法大会に出場してから20数年がたちました。仕事に支障の少ない早朝に集合して毎日訓練をしていました。団員も農業従事者が多く、家族に時間を融通してもらい頑張った事を思い出します。あの頃は、どの家も今ほどの耕作面積はありませんでしたが、それでも家族の協力をくしては出来なかったと思います。

現在は、農業も大きく変わり、機械化が進み耕作面積も増えました。団員の職業構成の割合も変わりました。村も自主自立の道を歩もうとしています。色々な状況変化の中、消防の果たす役割もますます重要になって来ていると思います。そういう環境の中で、私の時代よりもさらに長く、厳しい訓練を積み重ね昭和村消防団は、前回に続き県大会優勝、全国大会連続出場という快挙を達成しました。操法員一人一人の努力は勿論ですが、家族の理解、全団員の応援があったからこそ出来た事だと思っています。全国大会へ向けて訓練も始まっています。団員達が大会で全力を出しきれよう、村全体での応援を引き続きお願いいたします。そして、こういった事を機に、村民の皆様が防火・防災に対する意識を高めて頂ければ幸いです。

議会のうごき

7 月

- 2日 議会だより編集委員会
- 11日 参議院議員選挙投票日
- 12日 利根郡広域圏議員協議会・定例議長会
- 12日 民生文教常任委員会県外視察
(山口県萩市・下関市)
- 14日 議会だより編集委員会
- 23日 総合運動公園下草刈り
- 30日 吾妻郡草津町行政視察
- 31日 中田横浜市長来村



8 月

- 2日 議会全員協議会
- 9日 産業建設常任委員会県外視察
(高知県馬路村・梶原町)
- 10日 小寺群馬県知事来村
- 18日 総務常任委員会県外視察
(新潟県津南町・長野県栄村・原村・泰阜村)
- 23日 第37回村民運動会打合会議
- 26日 ポンプ操法競技大会 県大会
第一分団優勝 ポンプ車の部
第三分団優勝 小型ポンプの部

- 29日 利根郡町村議会議長会行政視察
- 31日 茨自販りサイクルセンター調査視察

9 月

- 3日 議会運営委員会
- 9日 第13回昭和村議会定例会
- 17日 大河原小学校運動会
南小学校運動会
東小学校運動会
- 18日 昭和中学校運動会
- 24日 利根地方総合開発協会県へ陳情
- 26日 第37回村民運動会



編集室から

これからの村づくりは、過去からの延長線上にあらず、大切なのは、村民協力の協力もとより、係る人々の正しい判断だと思えます。

議会だよりは皆様への議会報告と共に、私たちにも数々の経験と勉強をさせてくれました。発行にあたりましては、多くの方々の指導と協力を、一同厚く御礼申し上げます。読んでいただきありがとうございます。

盛吉記

昭和村議会広報編集特別委員会

- 委員長 金子 松二郎
- 副委員長 関上 正雄
- 委員 竹之内 章
- 堀 盛吉
- 吉野 幸一郎
- 吉野 藤彦
- 澤浦 豊由

